MATLABの使い方

小林 哲則

koba@waseda.jp

小川 哲司*

ogawa.tetsuji@waseda.jp

*本年度の問い合わせ窓口は小川です、必要に応じてメールにて連絡してください。

行列の入力

行列を入力するには次のように書く:

```
>> S = [16 3 2 13; 5 10 11 8; 9 6 7 12; 4 15 14 1]
```

MATLABは、入力された行列を次のように表示する:

```
>> S
S =
16 3 2 13
5 10 11 8
9 6 7 12
4 15 14 1
```

行列の要素

行列のi,j要素を指定するためには次のように書く:S(i,j)

例えば、先の行列で S(4,2) は 15 である.

```
よって,
>> S(1,4) + S(2,4) + S(3,4) + S(4,4)
と書けば,
ans =
34
となる.
```

注意

定義されていない行列要素を参照するとエラーとなる.

先の例では、4×4の要素しか定義されていない(値が与えられていない)ので次のような指定はエラーとなる.

```
>> temp = S(5,5)
```

一方,定義されていない行列要素でも,値を代入する場合には,行列が拡張されて,その要素を使えるようになる.

```
>> temp = S;

>> temp(4,5) = 71

temp =

    16 3 2 13 0

    5 10 11 8 0

    9 6 7 12 0

    4 15 14 1 71

(4×5のマトリクスとなる)
```

変数

MATLABでは、型や次元数の宣言は一切不要である.

新たな変数名を見つけると、自動的に変数を作り領域を割り当てる.

既に変数が存在するときは値を変更し、必要であれば領域を割り当て直す。 例えば、

>> num_integer = 100

は, num_integer という名前の1×1行列 を作り, 値 100 を入れる.

変数名は、英字で始まる任意の英数字列(下線を含む)で構成される.

MATLAB は大文字と小文字を区別する.

変数に割り当てられた行列を見るためには、単に変数名を書く.

>> num_integer

num_integer =

100



通常の10進数表記を採用している.

-199

0.00002

1.2345667

10のべき乗を表すために, e を用いる.

1.31e-31 1.563e24

虚数を表すために, i, jを用いる.

0 + 1i 3 - 2i

1.25e5i

特別な定数

i 虚数単位 **sqrt(-1)**

pi 円周率 P = 3.1415927

eps マシンの精度

nan 非数值

inf 無限大(最大値)

コロンオペレータ(1)

コロン:は、様々な形で使われる.

例えば,

>> 1:10

と書けば、1から始まり10で終わる行べクトルを表す.

ans =

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

増分を1以外にするためには、増分パラメータを指定する. 例えば、

>> 10:-2:0

% 初期值:增分:最終值

と書けば、増分は-2と解釈される。

ans =

10 8 6 4 2 0

コロンオペレータ(2)

```
行列の中で
```

```
S(i:j,k)
と書けば、k番目の列ベクトルのi番目からj番目までの列ベクトルを表す.
  >> S(2:3,1)
   ans =
     5
同様に,
  >> S(1, 2:4)
と書けば,
   ans =
```

を得る.

3 2 13

コロンオペレータ(3)

行列の要素の位置で,:を単独で用いると,行あるいは列ベクトルを表す.

```
S(:,k)
```

と書けば, k番目の列ベクトルを表す.

```
>> S(:,1)
ans =
16
5
9
4
```

同様に,

と書けば、第1行ベクトルを得る.

出力の制御

単に命令を書けば、結果を出力する.

```
>> s = rand(1, 5, 'normal')
s =
0.5608486  0.6623569  0.7263507  0.1985144  0.5442573
```

セミコロンで終われば、結果は出力されない.

```
>> s = rand(1, 5, 'normal');
```

継続行

1行を超える場合は、改行の前に3つのピリオド…を入れ、命令を次の行に続ける.

例えば,

結合

小さな行列をまとめて大きな行列を作ることができる. 例えば,

```
>> a = [1 2 3];

>> b = [4 5 6];

>> c = [7 8 9];

>> d = [a b c]

d =

1 2 3 4 5 6 7 8 9
```

行/列の削除(1)

```
>> s =

1 2 3 4

5 6 7 8

9 10 11 12
```

に対し、2列目の列ベクトルを削除するには、

とする。

行列に対し、単一の要素は指定できない. 例えば、以下はエラーとなる.

行/列の削除(2)

しかし、添え字をひとつにすると、ひとつの要素を削除し、 残りの要素を 列ベクトルに変換する.

例えば、行列 S を列ベクトルにした上で、第2要素を削除する場合は以下のように書く.

```
>> s(2) = [ ]
S =
     6
      10
     3
      7
      11
     8
```

行/列の削除(3)

行列 S を列ベクトルにした上で、第2要素から第9 要素まで、2つおきに削除する場合は以下のように書く.

```
>> s(2:2:9) = []
s =
1
9
6
3
11
4
8
12
```

行列を作る関数(1)

要素が全て零である行列(零行列)を作るには zeros(N, M) を使う.

```
>> zeros(3, 2)
ans =
>> T = [1 2 3 4; 5 6 7 8]
>> zeros(T)
ans =
```

行列を作る関数(2)

要素が全て1である行列を作るには ones(N, M) を使う.

一様乱数を要素とする行列を作るには rand(N, M, 'uniform') を使う. 正規乱数を要素とする行列を作るには rand(N, M, 'normal') を使う.

セル配列

セル配列は多次元配列で、その要素は異なる配列から構成される. 空行列のセル配列は、cell() 関数で作成する.

```
>> A = [1 2 3; 4 5 6; 7 8 9];
>> M = cell(1, 4);
>> M\{1, 1\} = A;
>> M\{1, 2\} = sum(A, 1);
>> M\{1, 3\} = sum(A, 2);
>> M{1, 4} = sprintf('matrix');
>> M
M =
     {3x3 double} {1x3 double} {3x1 double} {'matrix'}
>> M{1, 2}
ans =
     12 15 18
```

演算子

MATLABの行列演算

[]	行列の定義,結合	;	行の区切り
()	要素の参照 m=a(k)	()	要素への代入 a(k)=m
,	転置	+	加算
-	減算	*	乗算
¥	左からの除算	/	右からの除算
^	べき乗	*	要素毎の掛け算
.¥	要素毎の左除算	./	要素毎の右除算
.^	要素毎のべき乗	*	クロネッカの乗算
.¥.	クロネッカの左除算	./.	クロネッカの右除算

演算子*は行列の掛け算を表す.

```
>> A
A =
>> B
B =
>> A * B
ans =
     10 15
```

演算子.* は要素ごとの掛け算を表す.

```
A =
>> B
B =
>> A .* B
ans =
```

>> A

演算子.*. はテンソル積(クロネッカー積)を表す.

```
>> A
>> A .*. A
ans =
    9 12 12 16
```

$$A.*.B = \begin{bmatrix} A(1,1)*B & \cdots & A(1,n)*B \\ \vdots & \ddots & \vdots \\ A(m,1)*B & \cdots & A(m,n)*B \end{bmatrix}$$

列ベクトルを使って、関数表を作ることができる.

```
>> s = [1:6]';
>> [s log10(s)]
ans =
     1.0000
     2.0000
             0.3010
     3.0000
             0.4771
     4.0000
             0.6021
     5.0000
             0.6990
     6.0000
             0.7782
```

スカラーと行列の演算

行列とスカラーが混在する場合、様々な規則で演算が生じる. 例えば、行列からスカラーを引く場合、各々の要素が引かれる.

```
>> s = ones(4,4)
S =
     1 1 1 1
>> s-1
ans =
```

関数:sum関数(1)

```
>> S = [16 3 2 13; 5 10 11 8; 9 6 7 12; 4 15 14 1]
  S =
      16 3 2 13
      5 10 11 8
      9 6 7 12
      4 15 14 1
なる行列 S に対して、関数 sum(S,1) は、行列要素を列ごとに足し合わせ、
行ベクトルとして返す.
  >> sum(S, 1)
  ans =
      34 34 34 34
```

関数:sum関数(2)

```
>> S = [16 3 2 13; 5 10 11 8; 9 6 7 12; 4 15 14 1]
  S =
      16 3 2 13
      5 10 11 8
      9 6 7 12
      4 15 14 1
なる行列 S に対して、関数 sum(S,2) は、行列要素を行ごとに足し合わせ、
列ベクトルとして返す.
  >> sum(S, 2)
  ans =
```

34

34

34

34

関数:mean**関数(1)**

```
>> S = [16 3 2 13; 5 10 11 8; 9 6 7 12; 4 15 14 1]

S =

16 3 2 13

5 10 11 8

9 6 7 12

4 15 14 1
```

なる行列 **S** に対して, mean(**S,1**) 関数は, 行列要素に対して**列ごとに**平均 値を算出し, **行ベクトル**として返す.

```
>> mean(S, 1)

ans =

8.5 8.5 8.5 8.5
```

関数:mean関数(2)

```
>> S = [16 3 2 13; 5 10 11 8; 9 6 7 12; 4 15 14 1]

S =

16 3 2 13

5 10 11 8

9 6 7 12

4 15 14 1
```

なる行列 S に対して, mean(S,2) 関数は, 行列要素に対して**行ごとに**平均 値を算出し, **列ベクトル**として返す.

```
>> mean(S, 2)

ans =

8.5

8.5

8.5

8.5
```

関数:find 関数(1)

find 関数は、配列の列ベクトルを順に並べて作ったベクトルの中の、条件に合う要素のインデックスの集合を、行べクトルとして返す.

```
>> a = [1 -2 3; 4 5 -6; 7 8 -9]
a =
     1 - 2 3
     4 5 - 6
     7 8 - 9
>> find(a<0)
ans =
     4 8 9
>> a(find(a<0)) = 0
ans =
     1 0 3
     4 5 0
        8 0
```

関数:find関数(2)

```
>> W
   W =
      1 2 3 4 5 6 7 8
     2 3 4 5 6 7 8 9 0 1
なる行列 W において、3行目が1である1、2行目の値を行列 X に代入する
  >> idx = find(W(3, :) == 1)
  idx =
     6 7 8.
  >> X = W(1:2, idx)
  X =
     6 7 8.
      7 8 9.
```

(X = W(1:2, find(W(3,:) == 1)))

関数:repmat

repmat(M,m) により、行列Mは行列 ones(m,m).*. M に置き換えられる. repmat(M,m,n) により、行列Mは行列 ones(m,n).*. M に置き換えられる.

```
>> W =
    1 2 3 4 5 6 7 8 9 0
    2 3 4 5 6 7 8 9 0 1
    0 0 0 0 0 1 1 1 2 2

>> repmat(W(2,:), 2, 1)

ans =
    2 3 4 5 6 7 8 9 0 1
    2 3 4 5 6 7 8 9 0 1
```

その他の関数

size(a) : 行列 a の次元数を表す行べクトルを返す.

length(a):行列 a の要素数を返す.

sin(a) :各々の要素のsin

fft(a) : FFT

ifft(a) :逆FFT

abs(a) :複素数の大きさ

inv(a) :逆行列

det(a) :行列式

条件分岐:if 文

```
if condition
       % code
 elseif condition
       % code
 else
       % code
 end
【例】
 if X > 0
       disp('X is positive.');
 elseif X < 0
       disp('X is negative.');
 else
       disp('X is zero.');
 end
```

条件分岐:select 文

```
select condition
       case 1
               % code
       case N
               % code
 end
【例】
 select modulo(num,2)
       case 0
               disp('The Number is Even');
       case 1
               disp('The Number is Odd');
       case 2
               disp('Inavlid Number');
       end
```

繰り返し: while 文

```
while condition
       % code
       % loop counter i.e., count =count +1;
 end
【例】
 mat = rand(1, 10, 'normal');
 binary = zeros(mat);
 count = 1;
 while (count <= length(mat))</pre>
       if mat(count) >= 0
                binary(count) = 1;
       else
                binary(count) = -1;
       end
       count = count + 1;
 end
```

繰り返し: break 文

【例】

```
mat = rand(1, 10, 'normal');
binary = zeros(mat);
count = 1;
while(count <= length(mat))</pre>
     if mat(count) >= 0
              binary(count) = 1;
     else
              binary(count) = -1;
     end
     count = count + 1;
     if count == 5 % break condition
              break;
     end
end
```

繰り返し:for 文

```
for
      loop condition
       % code
 end
【例】
 mat = rand(1, 10, 'normal');
 binary = zeros(size(mat));
 for count = 1: length(mat)
       if mat(count) >= 0
                binary(count) = 1;
       else
                binary(count) = -1;
       end
 end
```

2次元プロット

2-D Plot

3

sin(x) sin(2x) sin(4x)

```
X = (0:pi/100:2*pi)';
                                                 0.6
Y1 = sin(X);
                                                 0.4
                                                 0.2
Y2 = \sin(2 * X);
Y3 = \sin(4 * X);
                                                       -0.4
                                                 -0.6
                                                 -0.8
figure;
plot(X, Y1, 'g', X, Y2, 'bx', X, Y3, 'ro');
                                              % 図タイトル
title('2-D Plot');
                                              % x軸ラベル
xlabel('x');
                                              % y軸ラベル
ylabel('sin(nx)');
                                              %凡例
legend('sin(x)', 'sin(2x)', 'sin(3x)');
```

ファイル入出力

以前にMATLABで作った変数をMATファイル(.mat)に保存したり、保存されたMATファイルを読み込んで変数を再利用できる.

テキストデータは,次のような矩形型の表形式でなければならない.

123

456

【例】 変数 A をMATファイル example.mat に保存する.

```
>> A = [16.0 3.0; 2.0 13.0];
>> save('example', 'A');
```

【例】MATファイル example.mat に保存された変数 A を読み込む.

```
>> clear A;
>> load('example', 'A');
```

テキスト・ファイルへの書き込み

数値のテーブルを temp.txt という名前のテキストファイルに書き込む.

```
X = 1:5;
Y = X.^2;
Z = [ X; Y ];
fid = fopen('temp.txt', 'w');
fprintf(fid, '%2s%5s\u00e4n', 'x', 'x.^2');
fprintf(fid, '%2d%5d\u00e4n', Z);
fclose(fid);
```

temp.txt には以下の内容が書き込まれる.

テキスト・ファイルの読み込み

A = fscanf(fid, format, sizeA)

は、識別子 fid のファイルから format で指定した形式に従い、次元が sizeA の配列 A にファイルデータを読み込む.

```
>> fid = fopen('temp.txt', 'r');
>> A = fscanf(fid, '%d%d', [2 inf]);
>> fclose(fid);
>> A'
ans =
     1 1
     2 4
        16
         25
```

オーディオファイルを読み書きする

[y, Fs] = audioread('filename');

は、filename というファイルからデータを読み取り、サンプルデータyと、 そのデータのサンプリング周波数 Fs を返す.

```
>> [y, Fs] = audioread('sample.wav'); % WAVEファイルを読み込み
>> sound(y,Fs); % オーディオを再生する
```

audiowrite(y, Fs, 'filename');

は、オーディオデータyの行列を、サンプリング周波数Es で filename というファイルに書き込む。

スクリプトファイル

コマンドを保存したテキストファイル(.m)を実行できる.

- 1. スクリプトの作成:新しいスクリプトは以下の方法で作成できる.
- [ホーム]タブにある[新規スクリプト] ボタンをクリックし、以下の命令を記述する. その後、scriptsine.m という名前で保存する.

```
% script m-file to plot sine wave
time = 0 : 0.01 : 20;
plot(sin(time));
```

- 関数 edit を使用してエディタを起動し、上記の様にコードを記述する.
 - >> edit scriptsine.m
- 2. **コードの実行:**以下の方法を使用してコードを実行できる.
- コマンドラインからスクリプト名を入力する.
 - >> scriptsine
- [エディター]タブにある[実行]ボタンをクリックする.

関数を作る

関数の作り方 function 出力 = 関数名(入力) % code end 【例】定義例:関数と同じ名前の独自ファイル(test.m)に保存する. function [out1, out2] = test (in) out1 = -in; out2 = in * in; end 【例】使用例:コマンドラインから関数を呼び出すことが可能になる. >> [a,b] = test(3) a ans = -3

b

ans = 9